

Nara Women's University Digital Information Repository

Title	修学旅行について
Author(s)	谷本, 文男; 吉田, 裕
Citation	谷本文男ほか : 研究紀要 (奈良女子大学文学部附属中・高等学校) ,1987, Vol. 28, pp. 67-70
Issue Date	1987-06-30
Description	
URL	http://hdl.handle.net/10935/2151
Textversion	publisher

This document is downloaded at: 2019-01-16T09:08:22Z

修学旅行について

谷本 文男 吉田 裕

1. 10年の経過

年	行き先	行 程	引 卒 者
52年	信州方面	25 (T) 京都===塩尻---諏訪湖---霧が峰---白樺湖 26 (W) 白樺湖-たて科牧場-小諸-鬼押出-白根山--志賀高原 27 (T) 志賀高原---戸隠高原----善光寺-----上高地 28 (F) 上高地-----信濃町-----鹿島槍 29 (S) 鹿島槍-扇沢-黒四ダム-扇沢-松本=====京 都	地主・木村 荒木・山中 井田・吉沢 出野上・仲
53年	信州方面	24 (T) 京都=====松本-----上高地 25 (W) 上高地-----乗鞍-----松本-----白 馬 26 (T) 白馬---扇沢---黒四ダム---扇沢--白 馬 27 (F) 白馬---長野---戸隠高原---白根山--志賀高原 28 (S) 志賀高原-----長野=====京 都	中道・龍野 仲・寅貝 中尾・水町 吉岡・森口
54年	九州方面	23 (T) 奈良-----大阪南港~~~~~ 24 (W) ~日向港--つ葉道路--サボテン公園--青島--宮崎 25 (T) 自由研修-----鹿児島 26 (F) 鹿児島---三太郎峠---御船---熊本---阿 蘇 27 (S) 阿蘇---立野---太宰府---博多=====京 都	上浦・水町 松本・荒木 林・寅貝
55年	東北方面	21 (T) 京都===== 22 (F) 秋田-----寒風山-----能代-----弘 前 23 (S) 弘前---十和田湖---後生掛温泉---藤七温泉 24 (S) 藤七温泉---八幡平---小岩井牧場---鶯宿温泉 25 (M) 鶯宿温泉---盛岡=====東京=====京 都	加藤・堀内 寅貝・山中 芳村・藤沢 木村
56年	東北方面	20 (T) 京都=====東京=====青森 21 (W) 青森--ねぶたの里--焼山--十和田湖~~~~~休 屋 22 (T) 休屋---大湯---後生掛温泉---八幡平---藤七温泉 23 (F) 藤七温泉---渋谷村---盛岡---小岩井牧場---網張温泉 24 (S) 網張温泉---盛岡=====東京=====京都=====西大寺	木村・加藤 渡辺・仲 屋舗・玖村 樋口

年	行き先	行 程	引 卒 者
57年	九州方面	19(T) 大阪南港 ~~~~~ 20(W) 日向港 ----- 宮崎 21(T) A・宮崎 ---- 志布志湾 ---- 桜島 ----- 鹿児島 B・宮崎 ---- えびの高原 ---- 霧島 ----- 鹿児島 22(F) 鹿児島 ----- 水俣 ----- 宇土 ----- 阿蘇山 23(S) 阿蘇山 ---- 太宰府 ---- 博多 ===== 京都	藤田・吉岡 芳村・中尾 中村・吉沢 松村
58年	東北方面	21(F) 京都 ===== 22(S) 大館 ----- 十和田湖 ~~~~~ 奥入瀬 ----- 休屋 23(S) 休屋 ---- 後生掛温泉 ---- 八幡平 ----- 網張温泉 24(M) A・網張温泉 ---- 小岩井牧場 ---- 網張温泉 B・網張温泉 ---- 宮古 ---- 浄土が浜 ----- 網張温泉 C・網張温泉 ---- 角館 ---- 田沢湖 ----- 網張温泉 25(T) 網張 ---- 盛岡 ---- 東京 ----- 京都	藤川・谷本 吉田・木村 寅貝・松村
59年	信州方面	23(T) 京都 ===== 名古屋 ---- 馬籠 ---- 諏訪 ---- 霧が峰 24(W) 霧が峰 -- 白樺湖 -- 軽井沢 -- 鬼押出 -- 白根山 -- 志賀高原 25(T) 志賀高原 -- 長野 -- 善光寺 -- 松本城 ---- 大町温泉 26(F) 大町温泉 -- 黒四ダム -- 大観峰 -- 美女平 -- 立山 -- 千里浜海岸 27(S) 千里浜海岸 -- 能登金剛 -- 兼六公園 -- 金沢 ===== 京都	林・山中 荒木・野沢 木村・藤田 中村
60年	九州方面	22(T) 奈良 ---- 大阪南港 ~~~~~ 23(W) 日向港 ---- 青島 ---- 日南 ----- 都井岬 24(T) 都井岬 ---- 佐多岬 ---- 根占 ~~~~~ 山川 ----- 指宿 25(F) 指宿 -- 鹿児島港 ~~~~~ 桜島港 -- えびの高原 -- 霧島温泉 26(S) 霧島温泉 -- 人吉 -- 熊本 -- 太宰府 -- 博多 ===== 京都	中道・中尾 寅貝・米田 谷本・辻本
61年	信州方面	20(M) 京都 ===== 高山 ----- 平湯温泉 21(T) A・平湯温泉 -- 上高地 -- 大正池 -- 諏訪湖 ---- 白樺湖 B・平湯温泉 -- 新穂高温泉 -- 鍋平高原 -- 上高地 ---- 白樺湖 22(W) 白樺湖 -- 小諸 -- 鬼押し出し -- 白根山 ---- 志賀高原 23(T) A・志賀高原 -- リンゴ狩り -- 善光寺 -- 松本城 ---- 大町温泉 B・志賀高原 -- リンゴ狩り -- 善光寺 -- 木崎湖 ---- 大町温泉 24(F) 大町温泉 -- 黒四ダム -- 大観望 -- 美女平 -- 立山 ===== 奈良	木村・仲 堀内・谷本 屋鋪・林 中村

==== 汽車 ---- バス ~~~~~ 船

2. 本校の修学旅行の特色

- ① 高校2年の二学期に実施する。共通一次試験の実施により高3春休みに行っていたものを高二の10月下旬にするようになった。
- ② 期間は四泊五日、費用は6万円～7万円を限度とする。
- ③ 内容は観光旅行である。
- ④ 計画・運営は生徒の主導で行われる。
 - ◎ 高校1年の1学期に生徒の修学旅行委員会を結成する。旅行委員は立候補及び選挙によって選ばれる。修学旅行委員会は、生徒の意見や希望を聞いて、行き先、見学地や自由行動の方法などをきめる。
 - ◎ 修学旅行委員会は担任・旅行業者と相談して、細かい日程を決めて、生徒全体の意見を聞いて修学旅行案をつくる。
 - ◎ 修学旅行案は教官会議で承認を得る。
 - ◎ 修学旅行委員会（高校2年で委員を改選することもある。）には、委員長・副委員長・会計・記録・渉外・レクレーション係・写真係行動班長・部屋長などがおかれる。
 - ◎ 修学旅行委員会は、旅行のしおり・歌集の作製、乗り物の座席の割り振り・旅館の部屋割りなどを行い、旅行中のすべての計画案をつくる。
 - ◎ 旅行中は委員長が行動の指揮を取る。宿舎到着後直ちに、委員会を開き添乗員と共に宿舎の人と会い、部屋長を集めて諸連絡をするとともに、その日の反省や問題点などを話し合う。

3. 修学旅行の問題点

本校の教師に対して行ったアンケートにもとづいて、問題点を整理してみると次のようになる。（アンケートの回収は20）

(1) 修学旅行の是非について

必要 5 不必要 4 その他 5 無回答 6

- ◎ その他には、形を変える・旅行に代わるもの・学年を変えるなどの意見があった。
- ◎ 修学旅行については、この10年間、日程の承認以外教官会議の議題にならず、その是非について討議したことがない。従って、修学旅行は慣例行事の一つとして行われてきた。
- ◎ 必要が5と少ないのは、修学旅行は実施期間としては6年間の中で最も長い行事であり、生徒にとっては期待の大きい行事であるにもかかわらず、教師にとっては意義の少ない行事ということであらわしている。あるいは、修学旅行そのものが、現在の学校教育の中では、もはや意味がないと考えているようである。
- ◎ 本校でも、行事の見直しとともに、修学旅行について徹底した討論が必要である。

(2) 現状の修学旅行について

今のままでよい 1 改善が必要 16 その他 3

- ◎ いままでにも何度か改善の試みがなされたが（スキー教室、壱岐・対馬歴史の旅など）生徒の反対で成功していない。
- ◎ 「今のままでよい」というのは、生徒主導の計画・運営方法がよいということである。
- ◎ 観光旅行つまり、昼はバスの中で眠って夜は宴会でカラオケ、旅行業者に引卒された団体旅行に対する批判が圧倒的である。
- ◎ なんらかの改善が必要なことは、ほとんどの教官の意向である。

(3) 改善の方向について

- A. 日数について 増やす 2 減らす 2
- B. 費用について 増やす 2 減らす 2
- C. 学年を変更する 2 毎年同じ所に行く 1
- D. 観光旅行をやめる 6 社会見学にする 6

◎ 観光旅行をやめて社会見学的なものに改善しようというのがひとつの方向である。

それについては、スポーツ（スキー、ボート、水泳訓練の延長のもの）・登山・体験学習（農村での米や野菜作り、草刈りなど）・交流教育・合宿（校庭でキャンプや討論会）・グループ行動など多数の意見がある。

費用と時間をかけてユニーク（異文化にふれる旅）なものにすべきだ、学校生活では得られない体験を思い出として持ち得ればよい、充実した旅のしかたを学ばせるもの、などの意見もある。

4. 今後の方向

以上のことから、本校の6年一貫教育の中で、中1の宿泊訓練・中3の水泳訓練・高2の修学旅行と続く宿泊行事の見直し、とりわけ修学旅行について根本的な検討が必要であることはいうまでもない。

本校の第一の特色である生徒による自主的運営が、次第にうすれていっているという指摘もあり、今ここで本校の現状に立脚した改善がのぞまれる。そのキーポイントは次のようなものであろう。

1. 生徒の自主的活動であること。
2. 日常の学校生活とはちがったもの。
3. 自己の向上をはかれるもの。
4. 観光旅行的でないこと。
5. 費用と日数については討論を要する。
6. 時期についても、旅行の準備が学園祭（中心学年である）と重なることから検討を要する。
7. 修学旅行委員会の構成（男女のバランスなど）を考える。